

## 学校評価に関して

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
校長 稲葉 良一

学校評価の目的の第一は、学校が教育活動および学校運営について、組織的・継続的な改善を図ることです。次に学校評価の実施・結果の公表によって、学校を地域に開かれたものとし、魅力ある学校づくりのために家庭や地域社会との連携を深めていくことです。そして設置者（私立学校においては理事会）が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備などの改善を講じ、教育水準の保証・向上を図ることとされています。

学校評価の実施手法としては次の3段階となります。

- (1) 自己評価 教職員が行なう評価
- (2) 学校関係者評価 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行なう評価
- (3) 第三者評価 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価

本校は平成20年4月に学校評価検討委員会を設置し、同年12月より「学校教育法」及び「学校教育法施行細則」に基づき、学校評価の「自己評価」を開始いたしております。平成22年1月末より「生徒による学校評価」を行ない、さらに平成22年11月より「生徒による授業評価」を始めることになりました。

本年度（平成30年度）も、例年通り保護者の代表である後援会実行委員の皆様にご協力いただき、「自己評価」、学校評価検討委員会の「自己評価分析」「生徒による学校評価」を検討していただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「生徒による学校評価」「生徒による授業評価」、そして「学校関係者評価」を真摯に受け止め、聖徳太子様の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

## 学校教育と学校評価

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
学校評価検討委員会  
委員長 川瀬 武比古

学校評価は、文部科学省の主導の下、教育全体を見つめ直そうという意図で実施されてきました。その眼目は生徒・保護者・教師が三位一体となり、生徒がよりよい教育を享受できるようにという点にあります。この目的のために、学校設置者は教育活動の成果を検証して組織的・継続的に改善を図り、学校設置者および保護者も含めた学校づくりを進めていくことが重要となります。

上記方針の下、本校の「学校評価」の取り組み・実施は平成 20 年 4 月以来、11 年が過ぎ、平成 31 年 4 月で 12 年目を迎えようとしています。

具体的に学校評価とは

目標設定 (Plan) → 取り組み (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)

という PDCA サイクルを指し、より良い教育活動に向けて毎年展開し、改善を図っていくというものです。

従って「評価」はもちろん評価自体に目的があるのではなく、将来にわたって学校が充実した教育活動を実施できるように、また学校が常にあらゆる場面で活動的であるために、その手段として評価するものであります。

本学園ではこの取り組みに際し、教育方針（目標）を基として、上記のサイクルを実施して学校評価を行って参りましたが、一昨年度 28 年度にはアンケート項目の大幅改訂を実施しましたので、昨年は小規模な改訂にとどめました。

今年度 30 年度につきましては、改定後まだ 2 年ということもあり、アンケート項目としては 29 年度を引き継ぐこととしました。

ただし、生徒学校評価アンケートの項目 29 の記述による回答は、他項目 (9, 22) で実施することとしました。詳しくは「生徒学校評価アンケート集計結果に対する分析」で記します。

次ページより、上記方針による学校評価アンケートの結果とその分析をご報告申し上げます。

報告にあたり、大勢の方々のご協力のもと、平成 30 年度のご報告が出来ますことを御礼申し上げますとともに、本報告が本校における教育の改善・充実につながる資料となり、また今後も関係の皆様のお力添えを頂けますことを、心からお願い申し上げます次第であります。

## 1. 教育目標

四天王寺学園の設置母体である四天王寺は、推古元年（593年）、聖徳太子によって建立された日本仏教最初の大寺である。聖徳太子は四天王寺で仏教精神を礎とし、世の中の平和や繁栄の実現に貢献すべき人間育成を大志とした「四箇院の制」（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）を設けられた。その敬田院が、慈悲救済を使命として生きる、立派な人格者を育成するという教育事業にあたる。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提處」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育目標である。

聖徳太子の和のご精神を礎とする信念ある女性の育成をはかる。

- (1) 円満で深い人間性をそなえた女性を育てる。
- (2) 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力を養成する。
- (3) 個性を充分伸長できる教育を行う。

## 2. 中期的目標 ～P l a n～

- (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る。
  - (ア) 学力の向上を通して冷静で柔軟な思考力を身につけさせる。
  - (イ) 毎日の活動や部活動・学校行事などを通じて協調性を育成する。
  - (ウ) 上記を通して四恩に報いる心、感謝の心、他を思いやる心を涵養する。
- (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する。
  - (ア) 教員の指導力、授業力のさらなる向上をめざし、保護者・生徒の信頼に応える。
  - (イ) 規律ある学校生活のもと、自主的・能動的に取り組める生徒を育成する。
  - (ウ) 学力の定着を図る小テスト・確認テストなど適宜実施する。
- (3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う。
  - (ア) 進路指導部と一体になった教員の研究会・講習会参加を通して、十分な情報・知識の習得に努める。
  - (イ) 的確に生徒・保護者に情報を発信し、生徒・保護者の信頼に応える。

- (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る。
- (ア) 欠席・遅刻に対する対応をきめ細かく行う。
  - (イ) 登下校時の合掌・礼拝を励行させるよう心の教育を行う。
  - (ウ) 他に誇れるような、通学時のさらなるマナーの向上を図る。
  - (エ) 常に時間を守ることの大切さを意識させ、基本的な生活習慣の継続・維持を図る。
- (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う。
- (ア) あらゆる機会を通して人権教育・学習を実践し、人権尊重の精神を涵養する。
  - (イ) いじめを許さず、保護者・教員・生徒全員でこの問題に取り組む学校作りを目指す。
- (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる。
- (ア) 防災体制を十分理解し、生徒の安全管理の徹底を図る。
  - (イ) 防災意識を高める教育を行う。
  - (ウ) 救命講習の機会を定期的に設ける。
- (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する。
- (ア) 教科指導の向上をめざし、しかるべき研修に参加する。
  - (イ) 生徒指導上の知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加する。

### 3. 全項目における目標指数

目標指数（評価点） 4.7以上

※評価点の算出方法：評価点＝5×A 当てはまる（％）＋4×B やや当てはまる（％）＋2×C あまり当てはまらない（％）＋1×D 当てはまらない（％）

平成30年度 本年度の取り組みに対する教師自己評価集計結果と分析

回答教諭人数 : 152名

今年度の重点取組目標 ～Plan～	質問NO	具体的な取組・内容 評価内容 ～Do～	評価点		A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない			
			29年度	30年度	A	B	C	D
(1) 長和学 をの習 図精や る神様 を々々 学なび 、験 人 を間 通的し 成て	1	毎日の学校生活が生徒の心の成長に繋がるよういつも心がけ、はたらきかけている。	4.6	4.7	65.1%	31.6%	3.3%	0.0%
	2	授業では生徒が深い関心や興味を持ち成長できるよういつも取り組んでいる。	4.6	4.6	69.8%	28.2%	2.0%	0.0%
	3	塔影祭（体育祭・文化祭）や部活動において、生徒の力を十分発揮させることが出来ている。	3.5	3.5	25.0%	43.4%	17.8%	13.8%
	4	和光館における講話を生徒に積極的に聴かせるよう指導できている。	3.5	3.4	30.9%	35.6%	14.1%	19.5%
	5	生徒会活動や部活動などいろいろな有意義な活動への参加を呼びかけている。	3.7	3.6	31.6%	36.8%	18.4%	13.2%
(2) 学学 力びの 養喜 成びを する理 解させ、 将来に 力強く 雄飛し 得る	6	授業に際しては十分な教材研究をいつもしている。	4.6	4.7	65.8%	31.5%	2.7%	0.0%
	7	応用力思考力がつくよう授業にいつも工夫を凝らしている。	4.5	4.3	52.3%	40.9%	6.7%	0.0%
	8	適宜小テストなど使い学習事項の定着を図っている。	3.7	3.8	40.3%	33.6%	19.5%	6.7%
	9	授業は規律正しくできている。	4.6	4.6	63.1%	32.9%	3.4%	0.7%
	10	授業の進度は適切である。	4.5	4.5	51.0%	45.0%	3.4%	0.7%
	11	生徒一人一人の学習状況をしっかり把握できている。	3.9	3.9	22.4%	63.2%	13.2%	1.3%
	12	副教材など適切に活用できている。	4.3	4.3	55.0%	32.9%	5.4%	6.7%
	13	遅進者には適切な支援ができています。	4.0	3.9	30.2%	50.3%	18.1%	1.3%
	14	生徒に能動的な学習に向けたアドバイスができています。	4.3	4.3	43.4%	46.7%	9.9%	0.0%
(3) 行発長個生 う信で性徒 やきを個 教る充々 育情分人 を報伸が	15	生徒の希望、疑問、不安などに対してよく耳を傾け、アドバイスを適切に行っている。	4.5	4.5	58.6%	38.8%	2.0%	0.7%
	16	成績資料や模試結果などを生徒に対して適切に効果的に利用できている。	3.6	3.6	24.3%	46.7%	21.7%	7.2%
	17	キャリア講座を始め、あらゆる情報を生徒保護者が利用できるよう徹底している。	3.0	3.2	26.3%	30.3%	18.4%	25.0%

## 教師自己評価集計結果に対する分析 ～C h e c k～

### (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る

本項目を先ず 29 年度との比較の観点で見ると、どの項目も大きな変化は無く、同じような傾向がうかがえ、昨年度と変わらない教員の取り組みがうかがえる。

1, 2 は前年同様、高い自己評価となり、教員はそれぞれ己の責務に励んでいるという意識を強く持っている。

3, 4, 5 に関しては、昨年度と変わらない傾向とはいえ、指数は高くはなく、昨年同様教員の行事や活動への積極的な関わり方が問われている。いかに主体的に取り組めるかということが課題のようだ。

### (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する

6, 7 は、一昨年以来、生徒学校評価の 5, 6 と表裏をなす関係と捉え、その乖離を指摘してきたが、本年度は、生徒学校評価の 5, 6 の指数で大きな改善が見られることとなった。これには教員の意識改革があると言えそう。ここ数年、保護者の方々にもアンケートを実施し、そのご意見を踏まえた改革を実施してきたが、その全校上げての取り組みが教員間にしっかり浸透してきたとみてよいのではなかろうか。

指数が 4.0 を切る項目は昨年とほぼ同指数の 8, 11 で、さらに 13 が  $-0.1$  ではあるが 4.0 を切った。これらの項目の向上が見られると、さらに生徒学校評価 5, 6 の指数が上がっていくものと考えられ、今後の教員の意識のあり方を示唆していると思われる。

### (3) 生徒個々人が個性を充分伸ばせる情報発信や教育を行う

15, 16 は前年と同じ、17 は 0.2 ポイント向上している。17 だが、進路のキャリア講座の取り組みの恒常化が教員にしっかり理解され、生徒・保護者の方へ周知徹底がしっかりなされつつあるといえそう。

16 は昨年、一昨年と変わらない数字であり、これはまだまだ改善の余地がある。昨年度も書いたが、効果的な利用法が今ひとつ確立されていないことが原因と思われ、今後の課題だ。

今年度の 重点取組目標	質問 NO	具体的な取組・内容 評価内容	評価点		A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない			
			29年度	30年度	A	B	C	D
(4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る	18	正しい制服・頭髪などについてしっかり指導している。	4.0	3.8	38.2%	37.5%	15.1%	9.2%
	19	欠席・遅刻に対してきめ細かく対応している。	4.3	4.1	46.1%	36.8%	10.5%	6.6%
	20	登下校時の合掌・礼拝を励行させる指導を行っている。	3.8	3.5	36.8%	32.9%	16.4%	13.8%
	21	通学時の路上や電車内のマナーについて十分指導している。	3.8	3.5	25.7%	39.5%	23.7%	11.2%
	22	校内美化の徹底を図る指導をしている。	3.9	3.9	37.5%	40.8%	12.5%	9.2%
	23	常に時間を守る指導を行っている。	4.6	4.5	61.2%	32.2%	6.6%	0.0%
	24	生徒指導は常に教師全員が情報を共有する意識を持ち、協働している。	3.9	3.9	35.5%	41.4%	21.1%	2.0%
	25	生徒個人々の状況の把握に努め、必要な場合の指導後は生徒のサポートを十分している。	4.1	4.0	37.5%	44.1%	14.5%	3.9%
	26	必要に応じて保護者との連携を十分にとっている。	3.6	3.4	37.5%	25.0%	15.8%	21.7%
(5) うめし育様 るて・々 教意学な 育識習人 をを権 行高通教	27	学級活動・教科活動で人権尊重の意識を高めるようしている。	4.1	4.1	48.0%	35.5%	10.5%	5.9%
	28	あらゆるいじめ・ハラスメントを許さない意識を徹底することができている。	4.4	4.4	60.5%	33.6%	4.6%	1.3%
	29	問題が発生した場合には教員全員で共有し、保護者との連携を強く意識し取り組んでいる。	3.8	3.8	42.1%	31.6%	22.4%	3.9%
(6) さ識安ルマ危 せを全に二機 る徹の則ユ管 底意リア理	30	生徒への安全管理の広報(AEDの場所・気象警報時の対処など)と徹底を図っている。	3.8	3.6	25.7%	46.1%	21.7%	6.6%
	31	防災意識を高める教育(防災訓練・火災訓練など)を行っている。	4.0	3.9	38.8%	39.5%	15.1%	6.6%
(7) 参研積目力己教 加修極指向の員 す等の上教は るににてを育自	32	教科指導の向上を目指し、しかるべき研修などに参加した。	3.7	3.6	37.5%	29.6%	19.7%	13.2%
	33	生徒指導上の知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加した。	3.1	3.0	27.6%	20.4%	30.9%	21.1%

#### (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る

前年に対してほぼどの項目も大きな変化は見られないが、指数の変動を見ると、22, 24 以外、全てマイナス変化である。しかもこの (4) において 4.0 を下回った項目が 3 分の 2 ある。風紀上や生徒指導上の心配りが低下しているように感じられる。教員は教科指導のみならずこれらの指導の認識もあらたにする必要がある。

昨年度の報告で、『26 は「次年度目標へ反映すべき項目」の (三) で保護者との意思疎通をあげ (二八年度)、その結果、保護者面談も全学あげて増やしたにもかかわらず指標が上がっていない。』と指摘したが、本年度はさらに指数を 0.2 減らし、3 年続けて同じ指摘が必要という結果になった。C l a s s i を導入するなど、ツールは整いつつあるが、まだ使いこなせていないということであろうか。それにつけても保護者満足度は？ということになるが、昨年度同様、保護者の方の「ご意見」をまちたい。

#### (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う

27, 28, 29 のどの項目も前年度と変わらず、また指数はほぼ満足のいくものとなっている。昨年同様、該当事案の発生が少なかったということであろうか。

#### (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる

30, 31 も前年並みだが、やや指数を下げた。マニュアル化を徹底したことで、逆に指数が下がったということがあるかもしれない。

#### (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する

昨年度から始まった四天王寺高等学校・中学校中・長期計画の、今年度平成 30 年度事業計画に基づく項目になる。事業計画でも必ずしも決まった研修を取り上げているわけではないので、教員自ら積極的に研修の機会を捉える必要があるが、実情はなかなか進んでいないということか。現状に満足せず将来にさらなる発展を目指すならば、全学を上げた取り組みを考える必要があるようだ。

### (本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目) ~A c t i o n~

- (一) 教員は、真摯に教育活動に取り組む姿勢を堅持しつつ、学校の目指す改革に全教員一致して取り組む意識を常日頃から持つ必要がある。
- (二) 遅進者のみならず、個々の生徒への細かな対応を常日頃から心がける必要がある。
- (三) 教員は教科指導にとどまらず、風紀上、生徒指導上のあらゆる場面に対して適切な指導ができるよう細かな心配りをする必要がある。
- (四) 必要に応じた面談や、また C l a s s i を活用した保護者の立場に立った意思疎通のさらなる充実をはかる必要がある。
- (五) 教科指導・生徒指導向上の為、研修会への参加等、教員自らがスキルアップに努める意識を持つ必要がある。



## 平成30年度 生徒学校評価アンケート集計結果と分析

実施学年：高校二年 回答人数381名 中学二年 回答人数240名

指標の計算式：Aの人数割合×5+Bの人数割合×4+Cの人数割合×2+Dの人数割合×1

A:はい B:どちらかといえばはい C:どちらかといえばいいえ D:いいえ

※指標の数値が高いほどその項目について望ましい評価であるが、一部項目（17, 20, 22）

については数値が低いほどその項目について望ましい評価、またどちらとも言えない項目（23, 24, 26, 28）があることにご留意ください。

NO	質 問		指標		A	B	C	D
			29年度	30年度				
1	学校では何事にも前向きに取り組んでいますか。	高校	4.2	<b>4.3</b>	49.3%	40.4%	7.9%	2.4%
		中学	4.0	<b>4.4</b>	45.4%	50.0%	4.2%	0.4%
2	学級活動や学校行事、また部活動に積極的に取り組んでいますか。	高校	4.3	<b>4.4</b>	62.2%	27.8%	7.6%	2.4%
		中学	4.2	<b>4.6</b>	63.8%	32.9%	2.9%	0.4%
3	予習・復習等は十分していますか。	高校	3.3	<b>3.5</b>	20.2%	47.5%	24.7%	7.6%
		中学	3.0	<b>3.9</b>	26.7%	57.5%	14.6%	1.3%
4	課題や宿題はきちんと提出していますか。	高校	4.1	<b>4.1</b>	48.8%	37.5%	11.5%	2.1%
		中学	4.3	<b>4.4</b>	56.3%	38.3%	5.0%	0.4%
5	授業で教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多いと感じますか。	高校	3.2	<b>3.8</b>	32.8%	47.5%	16.5%	3.1%
		中学	3.4	<b>4.1</b>	40.8%	44.2%	12.9%	2.1%
6	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解が出来るように工夫されていると思いますか。	高校	2.9	<b>3.9</b>	31.5%	49.6%	15.0%	3.9%
		中学	3.6	<b>4.1</b>	39.6%	45.4%	12.5%	2.5%
7	和光館における講話をしっかりと聴いていますか。	高校	3.2	<b>3.1</b>	21.0%	30.7%	31.2%	17.1%
		中学	2.8	<b>3.9</b>	28.3%	48.8%	17.9%	5.0%
8	自分の進路に関してしっかり考えていますか。	高校	4.2	<b>4.4</b>	62.5%	29.4%	7.1%	1.0%
		中学	3.3	<b>3.4</b>	21.3%	40.0%	28.8%	10.0%
9	進路(中学は学習相談)について先生とよく相談しますか。また先生以外では誰と相談しますか。あれば下に書いてください。(「友達」などと書き、実名は書かないように)	高校	2.2	<b>3.1</b>	26.0%	24.1%	30.4%	19.4%
		中学	1.4	<b>2.6</b>	14.2%	25.8%	27.9%	32.1%
10	進路について保護者の方とよく相談していますか。	高校	4.1	<b>4.3</b>	59.3%	24.9%	13.1%	2.6%
		中学	3.0	<b>3.5</b>	31.3%	38.3%	16.7%	13.8%
11	正しい服装や頭髪を心がけていますか。	高校	4.7	<b>4.6</b>	71.1%	23.6%	3.4%	1.8%
		中学	4.5	<b>4.8</b>	86.7%	12.9%	0.4%	0.0%
12	安易な遅刻や欠席をしないよう心がけていますか。	高校	4.7	<b>4.8</b>	83.2%	12.1%	3.7%	1.0%
		中学	4.7	<b>4.9</b>	89.6%	6.7%	3.8%	0.0%
13	登下校時の慈母観音様への合掌礼拝を励行していますか。	高校	4.6	<b>4.5</b>	71.4%	18.4%	5.0%	5.2%
		中学	4.5	<b>4.9</b>	92.5%	6.7%	0.8%	0.0%
14	登下校時のマナーに気をつけていますか。	高校	4.5	<b>4.6</b>	69.0%	27.6%	1.8%	1.6%
		中学	4.2	<b>4.7</b>	69.6%	29.2%	1.3%	0.0%
15	教室の整理整頓・美化に努めていますか。	高校	3.9	<b>4.1</b>	48.3%	37.8%	10.2%	3.7%
		中学	3.5	<b>4.3</b>	44.6%	49.2%	6.3%	0.0%
16	授業の始まりなど、時間を守るよう心がけていますか。	高校	4.5	<b>4.5</b>	66.9%	28.3%	3.7%	1.0%
		中学	4.2	<b>4.7</b>	72.1%	27.5%	0.4%	0.0%
17	クラスやクラブ活動でいじめを感じたことがありますか。	高校	1.4	<b>1.3</b>	2.1%	1.6%	8.4%	87.9%
		中学	1.4	<b>1.3</b>	2.5%	4.6%	10.8%	82.1%
18	(17)でいじめを感じたことがあると答えた人だけ答えてください。それは解消されましたか。	高校	4.0	<b>3.9</b>	71.4%	0.0%	0.0%	28.6%
		中学	3.9	<b>4.0</b>	76.5%	0.0%	0.0%	23.5%

## 生徒学校評価アンケート集計結果に対する分析

1, 2 に関して、さらに指数が上がり生徒達の意識の高さがうかがえる結果となった。生徒たちの日々の前向きな取り組みが十分にうかがえて非常にうれしい限りで、保護者の方々とともに喜びたい。それにつけても、教員の適切なる導きが痛感されて身が引き締まる思いだ。

3, 4 も昨年度より指数が上がっている。3 は特に中学で顕著で、能動的な学習の姿勢がうかがえる。喜ばしいことだ。しかしまだ中高とも指数が 3 台であるので、さらなる向上があるよう指導していきたい。

5, 6 は教員自己評価の 6, 7 と表裏をなす関係になるところだが、この 2 項目の中高 4 つの指数の平均がほぼ 4 になり、前年度よりかなりの改善が見られた。教員自己評価のところにも記したが、学校の改革の諸施策が教員の意識に浸透しだしたということではなかろうか。

とはいえ、最初に記すように目指すは指数 4.7 以上であり、教員はさらにたゆまぬ努力をする必要があるということだ。

※この学校評価の報告も意識改革の一助となっているならば、最初に記した PDCA サイクルが好循環しだしたと言えそうで、この報告の意義を感じるころだ。

7 は、高校で 0.1 ポイント下げたが、中学では一気に改善が見られる。事前学習等の成果と言えそうで、高校も追随する必要がある。

8, 9, 10 は進路関係になり、例年と同様に高校生の方がもちろん意識が高い。今年度は項目 9 で、他に誰と相談するかの記述回答を導入した。次ページで記した『両親 兄弟(姉、兄) 友達 塾の先生 先輩』は当然といえば当然だが、もちろん『両親』の記述が一番多かった。生徒たちはしっかり自分の進路を考え、アドバイスを適切に求めているという姿が浮かび上がる。

11, 12, 13, 14, 16 は昨年同様教師の項目の「規律正しい生活習慣」ということになるが、昨年度同様高い指数で、またさらに向上している項目も半数を超える。本校生徒達がいわゆる真面目な生徒達であり、さらに「まじめ度」が上がったということであろう。もちろん教師側の実感に合致するところだ。

これは言い訳ではないが、生徒たちの「まじめ度」が上がると、教員自己評価で指摘した『風紀上や生徒指導上の気配り』が必要ということと、指数は反比例になるのかもしれない。

しかし教員は生徒の状況を十分に把握し、適切な指導を怠ってはならない。

通行上や乗車時のマナーで苦情が入る件数も減少しているよう感じられるが、生徒の意識も向上してきているようだ。校則の記述で生徒自身も鞆で指摘しているが、生徒の意識が上がっている証拠だ。

15 の教室の整理整頓・美化の項目も向上が見られる。心の教育の一環としてさらに指数の向上を教員は目指したい。

17, 18 は、いじめに関する質問項目。18 の未解消の回答、および 20 に「はい」の回答が残っている現状に関しては、やはり来年度早速に「いじめとハラスメント」のアンケートを実施する必要がある。

NO	質 問		指標		A	B	C	D
			29年度	30年度				
19	あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動していますか。	高校	4.2	<b>4.4</b>	52.0%	41.7%	3.7%	2.6%
		中学	3.8	<b>4.5</b>	57.1%	40.4%	2.1%	0.4%
20	先生からハラスメントと感じることを受けたことがありますか。	高校	1.7	<b>1.7</b>	7.6%	8.4%	17.1%	66.9%
		中学	1.8	<b>1.2</b>	1.3%	3.3%	11.7%	83.8%
21	校則は守っていますか。	高校	4.5	<b>4.6</b>	67.2%	27.3%	3.1%	2.4%
		中学	4.3	<b>4.7</b>	78.8%	20.4%	0.8%	0.0%
22	校則に改善すべき点があると思いますか。あれば下に具体的に書いてください。	高校	4.0	<b>2.9</b>	29.4%	18.4%	22.3%	29.9%
		中学	4.0	<b>2.5</b>	17.9%	16.3%	20.8%	45.0%
23	悩み事があった場合、先生と相談していますか。	高校	1.8	<b>2.4</b>	16.3%	16.8%	22.6%	44.4%
		中学	2.0	<b>2.3</b>	11.7%	16.7%	23.8%	47.9%
24	悩み事があった場合、場合によってカウンセラーと相談していますか。	高校	1.2	<b>1.3</b>	4.7%	3.4%	5.2%	86.6%
		中学	1.2	<b>1.3</b>	3.3%	1.7%	5.4%	89.6%
25	自分自身の健康管理（食事・睡眠など）に注意していますか。	高校	3.9	<b>3.9</b>	39.6%	39.9%	12.3%	8.1%
		中学	3.5	<b>4.0</b>	33.8%	43.8%	17.5%	5.0%
26	校内の食堂や購買をよく利用しますか。	高校	3.2	<b>3.2</b>	32.5%	23.4%	26.0%	18.1%
		中学	3.2	<b>3.3</b>	27.5%	30.8%	26.7%	15.0%
27	図書室をよく利用しますか。	高校	1.8	<b>2.3</b>	13.6%	14.4%	26.5%	45.4%
		中学	2.0	<b>2.1</b>	10.4%	14.2%	25.0%	50.4%
28	自習スペースをよく利用しますか。	高校	2.4	<b>2.6</b>	21.5%	16.5%	19.4%	42.5%
		中学	2.5	<b>3.0</b>	25.0%	18.8%	28.3%	27.9%
29	校内の施設は充実していると思いますか。	高校	2.9	<b>3.1</b>	20.5%	36.0%	26.0%	17.6%
		中学	3.3	<b>3.1</b>	19.2%	35.4%	23.3%	22.1%
30	防災訓練にまじめに取り組んでいますか。	高校	3.8	<b>4.0</b>	38.8%	44.9%	10.8%	5.5%
		中学	3.6	<b>4.3</b>	48.3%	42.5%	8.3%	0.8%
31	校内にある防災器具(消火器)や救命器具(AED等)の場所を知っていますか。	高校	3.3	<b>3.4</b>	27.6%	35.4%	23.9%	13.1%
		中学	2.2	<b>2.5</b>	15.8%	20.8%	26.7%	36.7%
32	AEDの場所を示す張り紙が貼ってあるのを知っていますか。	高校	3.6	<b>3.7</b>	51.4%	18.4%	11.0%	19.2%
		中学	2.7	<b>3.1</b>	41.7%	10.8%	15.4%	32.1%

(記述の主なもの)

9. 先生以外で進路（中学は学習相談）で相談する相手

両親 兄弟(姉、兄) 友達 塾の先生 先輩

22. 校則で改善すべき点（ある場合、具体的に）

- ・立ち寄り許可証は必要なのか（緩和して欲しい等）
- ・髪の毛はくくらないといけないのか（もう少し緩和して欲しい）
- ・スカート丈は膝下でないといけないのか ・靴下の色を黒や紺も許可して欲しい
- ・携帯電話の使用に関して緩和して欲しい
- ・鞆は指定のものでないといけないのか（電車内で邪魔）
- ・ネクタイを元に戻して欲しい（歪んでしまい清潔感がなくなる） ・補助鞆を自由にして欲しい
- ・マフラーの大きさの規定等、意味があるのか ・コートを自由にして欲しい
- ・体育の授業でタイツを許可して欲しい
- ・お菓子の持ち込みを許可して欲しい（バームクーヘンを校内で売っていることと矛盾している）
- ・文化祭で親戚や男子入場を許可して欲しい ・アルバイトを許可して欲しい

19 は人権尊重の意識に関するものだが、中高とも指数は改善し、特に中学では顕著だ。ただし人権尊重は、意識があれば教育はもう必要ないというものではなく、教育の成果が出ていることを踏まえつつさらなる教育が必要だ。

21 も昨年以上に指標が向上し、しかも 21 の改善すべき点がありますかの問の指数が激減している。改善すべき点があれば書いてくださいと問われて、実際は思いつかないということがあって、指数が減ったと考えられる。左ページは、記述回答の内容をほぼ網羅したものになる。どのような記述回答が出てくることかとやや心配していたが、全くもって四天王寺の生徒にふさわしいとでもいえばいいのか、教員自身も予想できる記述回答ばかりであった。「マフラーの大きさの規定」など誤解からの回答もあったが、全体として今後の校則の変更の折の参考にしたい。

23, 24 は、昨年度より「先生」と「カウンセラー」の 2 項目に分けたが、「先生」への相談は昨年度より高中とも指数が上がっている。が、相談しない指数の多いのも事実。これをどう見るかは難しいが、教師は必要とあれば相談される存在であるべきで、その必要性に変わりがないことを自覚する必要がもちろんある。

25 は指数が中学で向上した。C・Dの合計がやや多いのが気になるところ。

26, 27, 28 は学校施設の使用状況が分かるところだが、昨年より少し指数が上がっている。自習室の使い勝手がある程度周知徹底されたということだろう。

29「施設の充実」度は昨年と変わりなくそう高くない。前年度から施設が大きく変わったところがない以上、当然の指数で、今後の課題だ。因みに今年度は、必要な施設の記述は前年度で聞いたということで実施しなかった。昨年度の記述を参考にしていきたい。

30, 31, 32 とも指数は向上している。生徒たちは防災訓練にまじめに取り組み、消化器や AED の場所も少しずつだが、認知度は上がっている。さらに指数が向上すべく、今後ともしっかりと対応していきたい。

### ( 本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目 ) ~ A c t i o n ~

本年度も高校・中学のそれぞれのアンケート指標に大きな差がないことから、高校・中学共通として記す。

(一) 生徒達の自発的な学習を導き出せるよう、教師はさらなる創意工夫をする必要がある。

(二) 教育理念に関わる仏教講話など、事前学習の徹底をはかる必要がある。

(三) 年々図書は充実してきているので、図書室利用の気運を高める授業展開など教員は考える必要がある。

## 平成30年度 学校関係者評価

四天王寺高等学校・四天王寺中学校後援会  
会長 藤井 薫

本年度の学校関係者評価は、以下のとおりです。

学校評価検討委員会は、今回、PDCAサイクルを教育現場に応用し、より良い教育活動を行うため、アンケートの質問に工夫を凝らし、より具体的に教師及び生徒の感想を把握するよう努めており、その試みは評価できる。また、同委員会の掲げる教育目標及び中期的目標についても異論はない。

教師自己評価集計結果についてみると、ほぼ昨年度の評価と変わらないが、おおむね高水準と評価できるし、152名の対象教員には、それぞれの担当科目や役職の有無などの差異があり、すべてを画一的に評価できない項目が存在することを考慮すれば、問題のない結果と考える。なお、教員の自己研鑽の努力（32、33）や保護者との連携（26、29）などには引き続き注意されたい。

生徒学校評価集計結果では、授業内容の充実（5、6）、進路相談（9、10）、図書室や自習室の利用（27、28）といった項目のほか学校生活に関する質問（1、2、3、14、15、19、23）に対しても著しい改善が認められる。

アンケートの対象学年は昨年の対象学年と異なるので、数値の改善を額面通りに受け取れない面もあるが、それにしても、これだけの変化があったことは特筆に値する。

そもそも改革は一朝一夕になしうるものではなく、タイム・ラグが存在するから、上記の結果は、この2、3年間、学校と教職員が一体となり、保護者の厳しい意見を正面から受け止め、着実に生徒のための改革を押し進めてきた結果が現れてきたものと評価する。その意味で、後援会としても、関係各位の努力に感謝したい。

もっとも、慢心は油断と硬直化を生み、新たな危険を招来するので、今後も、学校、教職員、保護者、生徒が一体となって、よりよい教育環境を整えられるよう尽力されたい。

以上